



社会と通信技術のパーソナル化

かつて、社会的には、個人よりも体制とか組織とか集団などが大切にされていた頃は、通信技術的にみると、ちょうどポイント・ツー・ポイントの基幹伝送システムが主流を占めていた頃と合致する。いわば、基幹伝送システムというのは、そういう社会形態に向く通信サービスを提供するシステムであるともみれる。

しかし、今や社会形態も多様化、個性化するなかちパーソナルな時代へと大きく転換しようとしている。このことは、21世紀に目指すべき社会像として、国民すべて中流の平等を目指す社会や、現状の社会システムを維持しようとする向きよりも、意欲や能力に応じて自由に仕事をし競争できる社会を望む人達が、少なくともこれからの社会を築いていく若い人達の間では圧倒的に多いことから伺える。

場所を変え、時間と共に移動する個人の世界は、有線では置き換えの効かない無線(ワイヤレス)の世界であり、従って、移動通信を中心とするワイヤレス通信への期待が少々異常なまでに膨らんでいる。また同時に、企業活動にしる、個人活動

にしる、それに携わる個人個人はできるだけ不自然でない情報との接触を強く望む。すなわち、例え距離的に離れていようが、人間の五感すべてを使って仕事ができ、生活のできる環境作りが急がれる。

そのためには、音声・データ・画像・映像などの諸情報を一括して扱うことのできるワイヤレス・マルチメディア通信を中核とする新たな通信サービスの登場が急務であるし、またネットワーク自体がインテリジェントでなければならない。

ワイヤレスの世界は、衛星通信、固定無線通信、陸上移動通信、光無線通信などと極めて広い広がりを持っている。これらワイヤレス通信の総合力を発揮して、パーソナルな時代にふさわしく、知的できめ細かいサービスが可能なネットワークを構築していきたいものである。

大阪大学大学院 工学研究科 教授

横須賀リサーチパーク研究開発協議会研究開発トピックス 会議副議長
森永 規彦

横須賀リサーチパーク研究開発協議会コーナー

横須賀リサーチパーク研究開発協議会等が今後開催を予定している主なイベントは以下のとおりです。詳細は、YRPニュースやYRPホームページ等でご案内させていただきますが、講演会等については積極的にご参加くださいますようお願いいたします。

開催日	イベント
11月26日	産学官連携セミナー 於：横浜国立大学共同研究推進センター
12月6日	デンマーク・オールボー大学プラサド教授半日セミナー
12月8日	APT ITS施設見学 第8回企画グループ会合
12月9日	フランス国立テレコム大学院ピンディア学部長講演会 於：NTTドコモ
12月17日	第4回研究開発トレンド会議
1月24日～28日	アジア移動体通信ワークショップ 於：シンガポール、マレーシア、タイ
2月3日～4日	情報処理学会モバイルコンピューティング研究会
2月17日～19日	電子情報通信学会移動通信ワークショップ
2月24日～25日	次世代端末キーデバイスシンポジウム
3月	関西地区YRP産学官連携セミナー
3月11日～12日	最先端の情報通信フェア
3月23日～24日	ミリ波国際シンポジウム

横須賀リサーチパーク研究開発協議会コーナー(つづき)

横須賀リサーチパーク研究開発協議会のA P Tへの参加

A P T (アジア・太平洋電気通信共同体)の移動通信分野の事業を中心に貢献していくため、研究開発協議会のA P Tへの参加が平成 11 年度第 2 回幹事会において了承されました。これを受け先般、羽鳥会長から郵政省国際部長へA P Tへの加入届が提出されました。なお、参加理由は次のとおりです。

横須賀リサーチパーク研究開発協議会は、中心事業の一つとして次の事項を目標に国際研究交流を推進しています。

通信分野における国際的な標準化活動の中で、Asia-Pacific 地域の発言力を強めていくことが必要であり、そのため、特にアジアの国々の研究者・技術者のポテンシャルを高める活動にも協力しつつ、仲間づくりを行い、連携を深める活動を推進する。

横須賀リサーチパークでの共同研究又は国立研究所・企業等が実施する将来の実用化を目指した移動通信システムの研究開発の初期段階から Asia-Pacific 地域諸国の研究機関との共同研究等(注)が実施できるよう相互の情報交流等の環境整備を推進する。

(注) - 海外研究機関との連携を密にして研究者を共同研究に招聘推進

- 研究開発に当たり外国研究機関の得意分野を考慮した役割分担による共同研究推進

一方、Asia-Pacific 地域諸国の社会・経済の発展のために情報通信の果たす役割は大きく、各国の通信インフラの実状を勘案すると、今後、移動通信の利活用推進がキーワードの一つとなっています。

A P Tはその発展のため Asia-Pacific 地域諸国の研究者・技術者の人材育成・研修事業を計画・実施しており、その推進に当たってはポテンシャルの高い横須賀リサーチパーク進出研究機関の貢献に対して大きな期待を寄せています。

これらの状況から研究開発協議会としてA P Tに協力できる事業については、わが国の国際協力策との調整も図りつつ、A P Tの活動に参加することにより、より効果的・より効率的・より早期に研究開発協議会としての目的を達成することが可能となります。今回のA P Tへの加入は、その貢献活動の前提となるものです。

アジア移動体通信ワークショップ

2000年1月、シンガポール、マレーシア、タイの3カ国において、研究開発協議会のアジア・太平洋地域の研究機関との国際交流事業の一環としての「アジア移動体通信ワークショップ」を開催します。これは本年5月に実施した第1回アジア電波情報通信技術研究開発アクティビティ調査での交流の結果実現したものであり、国別のワークショップではアジア太平洋地域の移動通信関係の研究者や技術者が一堂に会し、IMT-2000、モバイルアプリ、ITS、次世代無線通信技術等のセッションでの相互の発表と交流を通じて、相互理解を深めることを目的にしています。現在のところ、YRP側は6社8名の方々の発表の申込みを受け付けており、最終的に発表者は10名程度になる予定です。また、各地の日本企業の現地事務所、研究所等からも研究者の方々が参加されるとともに現地研究機関の視察も計画する予定です。

尚、開催に際しましてはアジア・太平洋電気通信共同体(A P T)のご協力も頂く予定となっています。

開催日と会場は次のとおりです。聴講のみの参加も可能ですので、ご希望の方は研究開発協議会事務局神村迄ご連絡ください。

開催日	国名	会場	外国人発表者	外国人参加者
1月24日(月)	シンガポール	Nanyang Technological University	4~5名	100名
1月26日(水)	マレーシア	Telecom Malaysia Training School(予定)	〃	50名
1月28日(金)	タイ	Asian Institute of Technology	〃	80名

Y R P次世代端末キーデバイス・シンポジウム開催の案内

Y R P研究開発協議会とY R P推進協会の共催およびIEEE COMSOC Tokyo Chapterの協賛で、来年(2000年)2月24~25日の2日間に「Y R P次世代端末キーデバイスシンポジウム」の開催を予定しております。

激しい勢いで進化している情報通信の世界、特にインターネットとコンピュータや場所を問わないモバイル通信などの次世代の情報携帯端末を担うキーとなるデバイスに関して各分野の権威者による最新技術の講演を行い、動画像や大量データの送受信、インターネットブラウザ搭載の携帯端末等、大きな変革が予測されているIMT-2000

横須賀リサーチパーク研究開発協議会コーナー(つづき)

に代表される次世代情報通信端末の研究開発に寄与することを目的としてシンポジウムの開催を企画いたしました。

基調講演、特別技術講演(DSPとμプロセッサの将来等)の他、端末のキーデバイスについて11のセッションを予定しております。講演者は海外も含む各分野の権威者に講演を依頼し、現在調整中であります。近くプログラムを決定し、ご案内を予定しておりますので、ご期待下さい。

(本件の問い合わせはE-mail: kanda@yrp.co.jp 又は、morinaga@yrp.co.jp へ)

横須賀リサーチパーク推進協会コーナー

モバイルベンチャーメッセ'99開催

急速な成長を続ける移動体通信分野において、今後の新技術・新事業創出の活性化をはかるため、企業規模を越えた戦略的な提携のためのマッチングの場を提供することを目的に、11月18日、19日の2日間、日経BP製品技術研究センター主催(推進協会と研究開発協議会は後援)による「モバイル・ベンチャー・メッセ'99」がYRPセンター1番館、NTTドコモR&Dセンタ、松下通信工業(株)YRP研究所を会場として開催されました。

岩手大学西澤学長による基調講演、NTTドコモ大星会長、郵政省関東電気通信監理局平井局長らによるパネルディスカッションを皮切りに、ベンチャー企業41社によるプレゼンテーションフォーラムやベンチャー支援団体、移動体通信関連企業等による15件のコラボレーションフォーラム等が行われ、両日で1500人を越える来場者がありました。

来場者を対象に実施したアンケート調査の結果については現在主催者側で集計中ですが、「モバイルという視点で集合したのは、大正解だと思います。講師との接点もあり、今後に大いに参考になりました」「これからベンチャーを志すメンバーには、非常に参考になり、また力づけられるイベントだったのではないかと思います」等々大好評でありました。



西澤学長による基調講演



パネルディスカッションのもよう

(株)横須賀テレコムリサーチパークコーナー

平成11年11月10日に今年度第2回目のYRP連絡会を開催し、下記日程によりクリスマスパーティを実施することが決まりました。年末のひととき、お友達と酒でも飲み交わしクリスマスソングでも聴きながら楽しいひとときを過ごしませんか。

記

1. 日時 平成11年12月17日(金) 午後5時30分から 2時間程度
2. 場所 YRPセンター1番館 エントランスホールおよびYRPホール(入場無料)
3. 内容 アマチュアバンドの演奏会、お楽しみ抽選会など
詳細は実行委員会で検討中です。なお、現在、運営等をお手伝いいただける方を実行委員として募集しています。ぜひご連絡ください。

(連絡先)(株)YRP総務・米沢 TEL: 47-5000

なお、当日、お酒や料理を提供する飲食のコーナーをエントランスホールに設けます。是非ご利用ください。(飲食は有料です)

研究所紹介コーナー

このコーナーでは、YRP地区に進出されている研究機関を毎回1～2機関取り上げ紹介しています。今回は、YRP地区に隣接するNTT横須賀研究開発センターを紹介します。

NTT 横須賀研究開発センター

当センターは昭和47年に横須賀電気通信研究所として発足し、幾多の変遷を経て現在に至っています。ご存知のように、NTTは本年7月より再編が実施され、基盤技術の研究開発部門は持株会社に集約されました。現在は全国で6個所に分散されているNTTグループのR&Dセンターの1つとして、豊かな情報流通社会に向けたNTTの研究開発を担っています。図1にNTT持株会社の研究開発体制図を示します。横須賀研究開発センターにはサイバーコミュニケーション総合研究所と先端技術総合研究所の未来ねっと研究所があり、情報流通ビジネスの発展に資する要素技術（コンテンツ作成支援技術、メディア処理技術、マルチメディアDB技術など）および共通プロダクト、さらに革新的通信方式に基づくネットワークシステムの研究開発を進めています。

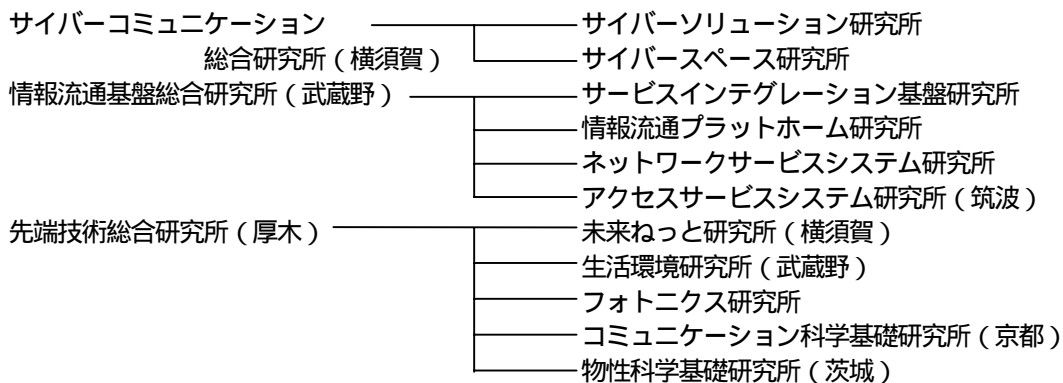
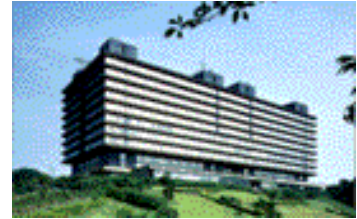


図1. 持株会社の研究開発体制

「デジタル革命」ともいべき近年のデジタル技術の向上は、電気通信網を飛躍的に進化させました。アナログでは不可能だったことが次々に実現され、音声、画像、データあるいはその複合情報を、高速で伝送することができるようになりました。いわゆるマルチメディア時代の始まりです。21世紀の初頭、マルチメディアは成熟し、人々はサイバershoppやデジタルキャッシュなど、ネットワーク上であらゆる商取引を行うことになるでしょう。このように、ネットワークの上を様々な「情報」が「流通」する社会、NTTはこれを「情報流通社会」と呼んでいます。そして、その豊かな社会の実現に向け、今、全力を挙げて研究開発に取り組んでいます。具体的には、図2に示すようにこの社会の市場を、4つの階層に分類し、サイバーコミュニケーション総合研究所では主にコンテンツアプリケーション、端末・ソフトウェアに関する研究開発をすすめています。これらのシステム、サービスを実現するNW環境としてモバイル環境を含む次世代のNWシステムの研究などとのバランスを崩さないよう考慮しています。

コンテンツ アプリケーション	企業の広報コンテンツから 放送・広告・音楽・ゲーム等のマスメディアコンテンツのNW流通へ
情報流通 プラットフォーム	情報データベース・検索サービスから NWによる広告・放送・決済等の情報流通の共通サービスへ
通信 ネットワーク	ベストエフォートから 帯域保証・高速通信の光・衛星・ワイヤレス等のNWサービスへ
端末・ ソフトウェア	ビジネス・マニア中心のPCから あらゆる世代が使える大衆情報家電へ

図2. 情報流通市場の4つの階層

（本頁の紹介文は日本電信電話株よりご提供いただいたものです）

編集・発行 横須賀リサーチパーク推進協会 〒239-0847 横須賀市光の丘5 横須賀リサーチパーク研究開発協議会 〒239-0847 横須賀市光の丘3-4 株横須賀テレコムリサーチパーク 〒239-0847 横須賀市光の丘3-4	TEL:0468-40-4100 FAX:0468-40-4101 TEL:0468-47-5008 FAX:0468-47-5010 TEL:0468-47-5000 FAX:0468-47-5010 http://www.yrp.co.jp/
--	---